

進捗状況の概要

本補助事業全体の目的は、東京工科大学型コーオペ教育プログラムを通じ、学生の主体的学修を促すことで本学の基本理念に沿った人材の養成である。

平成 27 年度の事業の進捗状況は以下のとおりである。

1. 事前教育の開講

学外就業体験に向けた事前授業として、企業や経済に関する知識を修得する科目（コーオペ企業論）やグループワークを主体とした科目（コーオペ実習Ⅰ）を開講し、実習に向けた事前教育を開始した。これらの科目は必修科目であり、工学部 1 年生全員が履修した。コーオペ企業論を通じて学生は、企業におけるコーオペ実習に必要な経済や企業に関する知識を得ることができた。また、コーオペ実習Ⅰを通じて、企業での実習で必須のスキルであるグループワークの方法論を学ぶとともにグループワークを通してコミュニケーション能力や課題の発見・気づき、課題に対する分析力を身につけることができた。

2. 実習企業開拓

企業開拓コーディネーターと本学教職員で実習先企業の開拓を行い、大学近隣地域を中心に 100 社程度実習先を開拓することができた。実習先企業とは実習プログラムの作成を進め、平成 28 年度後期に実施する機械工学科（定員 100 名）の実習先として十分な数を確保することができた。これらの企業は、工学部の学修内容と親和性の高い企業であり、製造業が中心である。また、本学のコーオペ教育についてまとめたパンフレットを作成した。このパンフレットは、企業訪問時の説明に際して活用し、企業のコーオペ教育に対する理解促進や就業体験企業の開拓に大いに役に立ち、学生の実習企業を拡大させることができた。

平成 27 年 11 月には、企業・団体の方を招き、コーオペ教育プログラムの試行の実績報告会と本学教員との情報交換会を行った。参加者からは、この会を通じて、コーオペ実習に関する理解が深まったという回答が得られた。また、参加した企業・団体の方と、本学教員が情報交換を行ったことで、本学の教育内容等を理解いただく大変意義のある会になった。

3. 運用ツールの作成

コーオペ教育を運用していくための運用ツールを作成し、この運用ツールをもとに学生向け及び企業向けハンドブックを作成した。

4. コーオペセンターの整備、運営の評価検討

コーオペ教育を適切に運営するために設置したコーオペセンター内の機材等の整備を行い、コーオペ教育の円滑な実施に向けた体制が整い、学生へのサポート体制が充実した。

平成 27 年 11 月には、コーオペ教育評価検討会を開催し、学外の有識者に対し、コーオペ実習（試行）の実績や今後の実施計画等について説明を行ったのち活発な意見交換が行われ、これまでの準備状況や今後の実施計画について妥当であるとの評価を受けた。

上記の通り、本取組は順調に進んでいると考えている。